



# 飯田市立病院ニュース

飯田市立病院・高松分院広報

編集・発行／飯田市立病院広報編集委員会 〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地  
TEL●飯田(0265)21-1255(代) FAX●飯田(0265)21-1266 http://www.imh.jp.

## 年頭所感

飯田市立病院長  
千賀 脩



平成十八年の新春を迎えるにあたりまして、皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年は、小泉内閣が郵政民営化の問題で解散総選挙に打って出て自民党が大勝利し、小泉劇場、小泉チルドレン、刺客などの流行語が生まれました。また、年末には、相次ぐ少女殺害事件が続き、暗い世相となりました。一方、世界では、イラク戦争の長期化による各地でのテロ多発事件、アメリカのニューオーリンズを襲った史上最大のハリケーン、カトリック・ヤパキスタンで起こった大地震など異常気象が多発し多数の犠牲者がでて、一昨年に引き

続いての自然災害の年でもありました。

さて、新年にあたり昨年を振り返りながら今年の病院事業の方針を述べ、年頭の所感とさせていただきます。昨年は二月に病院機能評価の更新のための審査が行われ、無事認定を得ることができました。四月には前院長の宮川信先生から院長職が私にバトンタッチされ、不安を覚えながらもすでに約九ヶ月間が経過しました。この間、病院にとって将来を左右する重要な案件が次々と浮上してきました。

まず第一に高松分院の今後のあり方についてですが、今日まで飯田市立病院は、高松分院と機能分担をしながら連携を取りつつ自治体病院としての使命を果たそうと努力してまいりました。しかし、慢性的な医師不足により入院制限を行い、昨年四月からは一般病床を閉鎖し、療養型病床(五十四床)のみの運営となっていました。このため、高松分院の経営の悪化等により残念ながら平成十八年度末をもつ

て閉院することに決定しました。今後は、介護老人保健施設として「ゆうゆう」を移転新築し、地域リハビリテーション支援センターを併設し再出発の予定です。

二番目として、昨年の夏頃より飯田下伊那地区の産科問題が急浮上してきました。この問題は、今では全国の産科の医師不足が深刻化する中、当地区では、早い時期に「産科問題懇談会」が発足し、行政、包括医療協議会、地域の産婦人科医会とともに、出産体制の整備に向けて検討を進めてきました。この結果、当地区での

取り組みが信州大学産科婦人科教室でも認められ、この二月に産婦人科医が一名増員されることになりました。また施設整備に関しても、南信州広域連合の出資により分娩台の増台、病棟の改修がされることになり、二月より開始されます。この問題はまだまだ未解決の部分が多く、将来の周産期センターを視野に入れながら考えたいと思っています。

第三番目に、昨年末より

リニアック装置の更新に伴う工事が始まり、約三ヶ月の間放射線治療が一時的に中止となり、皆様方には多大なご迷惑をおかけすることになります。さらに、七月にPET/CT(陽電子放射断層撮影装置)の導入を予定しています。南信地区初めてのPET/CTの導入により、癌の早期発見、早期治療に取り組み、地域がん診療拠点病院をめざして頑張っていこうと考えています。

また、飯田市立病院は地域医療支援病院として二二年目を向かえ、さらなる病棟・病診連携を深め、これからも自治体病院としての社会的使命と、健全経営にも配慮した病院作りを目指していく所存です。

最後になりましたが、皆様の深いご理解と、さらなるご支援をお願い申し上げますとともに、本年が希望に満ちた明るい年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

# 産婦人科問題

全国的な産科医が不足している中、飯田下伊那地方においても産科や分娩を取りやめる医療機関が増加し、平成十八年には分娩を扱う医療機関が、市立病院、椎名レディースクリニック、羽場医院の三施設となっておりません。そこで、産婦人科医をはじめとした医療関係者や行政関係者が、産科問題懇談会を開催して協議を重ねてまいりました。

その結果、この地域の出産できる場所を確保するため「地域で支えあう産婦人科医療」をとりまとめ、市立病院と他の医療機関とが役割分担して取り組むことを発表しました。今回はあくまでも当面の方策であり、今後においても市民が安心して出産ができる場所を確保するため、産婦人科医の確保など息の長い取組を進めなくてはなりません。

幸いにも、当地方の取組

がモデル地区として評価され、

この二月より信州大学から産婦人科医一名の派遣を受けることができるようになりました。また、市立病院が当地方の広域的な基幹病院として位置づけられ、南信州広域連合から五億円の出資を受けることができるなど、地域全体の応援もあります。今後も市民の理解のもと関係機関が協力し、今後の中長期的な体制づくりに向けて前進する必要があります。市立病院は、その中心的な医療機関として積極的に対応してまいります。

当面の具体策として、妊婦健診や婦人科の診療については地域の産婦人科医が担い、市立病院は一部の妊婦健診と分娩を中心に対応してまいります。そのため、産科共通

カルテを作成して情報の共有化を図ります。また、市立病院の分娩数の増加に備え、分娩室の増設工事や分娩装置等を整備し、更に産婦人科を含めた院内の病床再編を行います。助産師や市役所保健師による保健指導業務も充実するのでご承知ください。

【経営企画課】



## 高松分院

### 健康教室のご案内について

私たち高松分院では「地域住民に開かれた病院作り」をめざし平成十三年八月から毎月健康教室を開催しています。

私たちが高松分院では「地域住民に開かれた病院作り」をめざし平成十三年八月から毎月健康教室を開催しています。この健康教室は参加される皆様からのアンケートを元に、身近で日常的な気

になる健康問題を取り上げ、家庭での予防策や療養、介護等についての知識・関心を高めることを目的にしています。こんな話が聞きたいというものがあればお気軽にお問い合わせいただき、多くの皆様のご参加をお待ちしています。



#### 今後の予定

- |       |              |
|-------|--------------|
| 1月26日 | かぜの予防と対策について |
| 2月    | フットケアについて    |
| 3月    | ひざの変形と痛みについて |



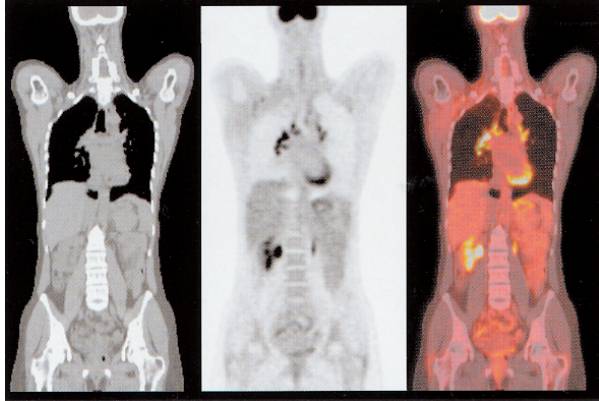
# PET-CT 導入

南信地区で最初のPET-CT（陽電子放射断層撮影装置）が当院に導入されることとなり、平成十八年七月から稼働開始の予定です。

PET-CTとはPET装置とCT装置が合わさった機器で、PETは腫瘍などの放射性薬剤の集まり具合を検出し、CTは体内の詳細な構造を断層像として描出することが出来ます。検査の方法は薬剤を注射し、一時間程休んでいただいた後、撮影を行います。一回の検査で全身を撮影することが可能です。PETとCTの画像を合わせて見ることで病変の位置や進行程度

の診断、転移の有無、良性・悪性の判別、治療効果の判定などが従来より正確に行えるようになります。地域の医療機関と連携し、患者さんの診療に役立てていくほか、癌の早期発見を目的に健診にも使用していく予定です。

【放射線科 岡庭 優子】



PET-CT画像

# ドクターヘリ訓練実施

十月二十五日に飯田市立病院と佐久総合病院との間でドクターヘリの合同訓練を実施しました。

これは、平成十七年七月に長野県において全国で十番目となるドクターヘリが佐久総合病院に配備され運行が開始され、医師の同乗により救命率の向上や予後の改善など、県民の安全・安心な暮らしの向上に大きな期待が寄せられています。

ドクターヘリは、救急隊の判断で、あるいは診療所等の医師が一一九番を通じて要請できます。出動要請が入ると医師・看護師が同乗し現場へ急行します。現場付近に着陸後救急隊と協力し診察・処置を行い近くの医療機関又は佐久総合病院へ搬送します。当日の訓練ではヘリポート着陸後当院への患者の引継ぎ、処置室までのストレッチャーによ

る搬入など行ないました。実施後の講評では機体の概要や整備方法について説明を受けました。ドクターヘリは医師による治療の早期開始と搬送時間の短縮に大きな利点があり、道路事情

ドクターヘリ内部 ▶



ドクターヘリ ▼



患者搬送訓練 ▼

の悪い南信への配備も望まれます。

【救急医療委員会】

# AED講習会開催

AED（自動体外式除細動器）は全県立高校、全市立中学校をはじめ公共施設に配備されるようになり、飯田医師会（蟹江孝之会長）所属の二十六診療所でも所有されています。こうした状況下、医師会長より地域医療支援病院として会員向けBLS（一次救命処置）、AED研修の要望をいただき、九月末から十一月初めまで計四回にわたり、当院において講習会を実施しました。



医師会長以下四十五名の受講医師に対し、インストラクターとして当院の医師十八名のほか、菅沼病院、すぎがら医院、

飯田病院、下伊那日赤、下伊那厚生、健和会の各病院、延べにして三十二名の先生方に協力いただきました。講習は二時間で、まず動画で手技（発見からAED使用まで）を見ていただいたあと、小グループ（七グループ）に分かれてAEDと人形を用いての実技主体で行いました。すでに自身の蘇生法を確立されている先生方は、国際標準の蘇生法に当初戸惑いもあつたようでしたが、自院の看護師や地域住民に教えるという目的のもと汗だくになりながら受講していただきました。

毎回終了後のインストラクター反省会によって、動画DVDを事前配布するなど回数を重ねるごとに講習法も改善され

ました。

受講された先生方からACLS（二次救命処置）研修の要望もあり、二月五日に当院で日本救急医学会認定ICLS（ACLSの一部）コースを開催予定です。

【救急センター長 神頭定彦】



AED実技演習



AED（自動体外式除細動器）とは電気ショックが必要な心臓の状態を判断できる心臓電気ショックの器械のことです。

## 看護助手の活動から

看護助手は看護部に所属し、A（三・四階病棟）B（五・六階病棟）C（中材ICU）D（外来）の四チームに分かれています。各々チーム目標を持ち日々の業務に励んでいます。この中で年四回の助手研修会は看護部教育委員会主催で行われます。年度当初に、患者さんが安全に安心して気持ちよく受診療養できるには、助手としてどのような事を学んでいってらよいかを考え年間計画を立てます。計画内容については以前研修したものがもう一度開催して欲しい、メンバーが代わったのでもう一度など繰り返し学ぶこともあります。

今年度は感染予防に関する学習会、一次



患者搬送訓練

救命処置に関する学習会（次はAEDの使用方法へとステップアップしています。）接遇研修会、患者さんの安全な移送を目指し車椅子やストレッチャーの体験学習会を開催しました。特に十一月には災害時の搬送訓練として、レスキューストレッチャーを使用し、患者さんを一人で搬送する実習を行いました。それを用いて階段を下りるときは緊張しましたが、いつ起こるか分からない災害に備える訓練として真剣に取り組むことが出来ました。常に学ぶことができる環境にあることを感謝しつつ、お互いのレベルアップを目指しながら頑張っています。



## 患者会の行事から



11月17日、喉頭全摘により声を失った方々の音声発声教室「長野県信鈴会飯田市立病院教室」が開所しました。当日は、多くの患者さんを始め関係の方々にご参加いただき盛大に開所式を開催することが出来ました。県内の発声訓練教室は、長野日赤・信大付属・諏訪日赤・佐久総合・伊那中央の各病院に設置されており、飯伊地区の方は伊那中央病院まで通っていましたが遠距離ということもあり教室を止めてしまう方も多い状況でした。今回当院に教室が出来たことにより飯伊地区の方が身近で発声訓練を行なえるようになりました。【地域医療部】

## 飯田市立病院医療安全推進委員会について

### 1) 委員会の活動

医療安全推進委員会は平成11年に組織され、翌年4月より活動を開始しました。委員構成は全職種より選出された35名で、うち医師の委員は11名です。

委員会の活動は、月一回の定例委員会、日常のインシデント・アクシデント報告の収集、事故報告書の収集、報告事項の検討と分析調査、それに基づく改善案の作成、院内への周知徹底、既に発表された改善案の遵守状況調査、院内・外の医療安全に関する情報収集、委員も含めた職員研修、機会を捉えての学会、研究会等への発表や、毎年発行される飯田市立病院医誌への委員会活動報告書の作成など広報活動。元気に活発に活動しております。

### 2) 中日新聞による「医療安全委員会の活動内容が非公開で閉鎖的である」という報道について

私たちの医療安全推進委員会は開かれた委員会であると自負しております。活動の成果はいろいろな場や方法で発表し、公開しています。

中日新聞の要求したインシデント・アクシデント報告書の公開は、全国どこの病院でも非公開を前提として収集しており、どこの病院でも公開の対象としておりません。報告書の分析結果、改善策等については、学会、研究会等に発表し、医療安全の推進に貢献しており、他施設の医療安全の参考にされている状況です。

【医療安全推進委員会】

インシデント 日常の現場で「ひやり」または「はっと」した経験で、実際に患者さんに施行する前に気づいた状態を指します。

アクシデント 実際に、患者さんに悪影響があると想定されることが行われた状況を指します。

## 皆様の声にお答えします。

市立病院では、外来・入院患者さん、お見舞い等の皆様から様々なご意見ご要望をいただいております。貴重なご意見につきましては、集約して関係職員への回覧の後、できることから改善を行っています。

今回は入院された方からの要望をご報告させていただきます。

**要望「食事の選択メニューはうれしいが、白米と玄米、牛乳と豆乳を選ぶことが出来るように種類を増やしてほしい。」**

主食につきましては、ご飯(通常の固さ・やらかめ)、おかゆ(5種類)、パン、麺(うどん・そば・そうめん)と多岐にわたっております。このようなことから、種類を増やすことについては作業上の面からも対応が難しい現状があります。

豆乳につきましては、アレルギー等で牛乳・乳製品が飲めない方には豆乳の対応もいたしております。治療を中心に栄養バランスを考え、基本的には牛乳・乳製品の摂取をお願いしたいと存じますのでご理解ください。

皆様からいただきました貴重なご意見はよりよい医療を行うために反映させ、期待にこたえられる病院にして参りたいと思います。



◀ 選択食 A



▶ 選択食 B

話題の広場



●シリーズ●

その8

## 職場紹介

### 【5階東病棟】

5階東病棟は消化器内科と形成外科の混合病棟です。形成外科は指先の小さな傷から、全身に及ぶ大きな傷まで綺麗に治す細かい手術を行う専門の科です。

消化器内科は周知の通り内臓の病気を治療する科です。今回は、主に消化器内科について職場の紹介をいたします。内視鏡検査をうけられる入院患者さんの約8割の方が、5階東病棟に入院されています。胃カメラだけでも昨年は200件以上行われました。内視鏡的に腫瘍やポリープを切除する目的で入院される患者さんも増加傾向にあり、検査の種類によっては1泊2日の入院をしていただくことがあります。また、治療や検査のため、絶食が必要となる患者さんも多く、点滴をしたまま入院生活をおくられるため、点滴スタンドをひいて歩いている光景が特徴的です。年齢としては0歳から100歳以上と、幅の広い年齢層の患者さんが入院されますが、高齢の方が多いため、退院後の家庭生活に向けて患者さんと家族に負担がかからないように、入院中にMSW（医療ソーシャルワーカー）や



リハビリスタッフなど他部門の職員と連携をとっています。

これからも、患者さんが安心して入院生活を送ってもらえるようにサービスの行き届いた看護を提供できるようにしていきたいと思っています。

### 待ち時間 調査結果について

市立病院では昨年10月に二日間にわたり受付から診察開始までの待ち時間について調査を行いましたので、その結果をお知らせします。調査人数は一、三三五人で、その結果平均待ち時間は三九分でした。前回調査では平均待ち時間は五〇分でしたので、改善が見られました。調査結果から見ますと、

この中には、待ち時間中に院外に出られた方、診察前に検査を受けられた方も含まれます。また、予約をおとりしてある患者さんを優先しているため、初診で見えの患者さんは受付した順番での診察開始となり待ち時間が長くなっています。なお、当院では今後も待ち時間短縮を重要課題として取り組んでいきますので、ご理解をお願いいたします。

#### 【医療サービス推進委員会】

待ち時間	人数	平均待ち時間
三時間以上	25	39分
二時間	55	
三時間	64	
一時間三十分	145	
一時間	353	
三十分	693	

### かかりつけ医を持ちましょう

飯田市立病院では「かかりつけ医」の先生方との医療連携を積極的に行っています。また、当院での専門的な外来診療や高度な検査・入院医療などが安全で効率的に実施できるよう、診療に関する情報を地域の先生方に公開しています。

初診の患者さん（新しい診療科を受診される場合）には、「かかりつけ医」の先生方からの「紹介状」をお持ちいただくことをおすすめしています。

#### 【地域医療部】

### 新任医師の紹介

平成17年10月5日～12月



産婦人科  
たけうち 竹内はるか  
平成13年卒業  
平成17年10月1日着任  
前勤務病院：市立大町総合病院



歯科口腔外科  
よこち めぐみ 横地 恵  
平成14年卒業  
平成17年10月1日着任  
前勤務病院：信州大学医学部附属病院

### 編集後記

昨年の今頃は機能評価（質の高い医療を効率的に提供するために、第三者による病院の評価）の受審に向けて、病院全体が一丸となって取り組んでいました。年々病院の機能のバージョンアップがなされ、より一層の努力が求められています。今年も患者さんの期待に応えられるよう職員一同頑張っていきます。

【編集委員会 木下啓子】